国内最大の配石遺構 ― 牛石遺跡 ―

約一万二千年前に氷河期が終了し、地球は温暖化に向いはじめました。それに伴いまして海水面の上昇という現象をひき起こし、日本列島は大陸から完全に切り離され、ほぼ今日と同じ形をした日本列島が形成されました。

温暖化に伴い動・植物相に大きな変化が起こり、人類にとって食料資源の拡大という生存に適した環境となりました。狩猟、漁猟、植物採集などの活動が活発化し、そのために各種の土器・土製品、石器、木器、骨角器などさまざまな道具が発明され、多用されました。

この中で、土器の発明は画期的なできごとであり、食物の煮沸や、水などの液体貯蔵に適した容器として用いられました。

氷河期が「石器の時代」であるなら、この温暖期に入った時代は「土器の時代」ということができます。

日本列島に出現した最初の土器は、深鉢形をした丸底、平低の土器で、単純な細い隆起文で飾られただけの「隆線文土器」と呼ばれるものでありましたが、その後に

撚紐による文様を多用する土器の発達が著しいところから縄文式土器と呼ばれています。

この縄文式土器の変遷に大きく五つの画期が存在することから、草創期、早期、中期、後期、晩期、の六時期に区分されるのが一般的です。

この縄文土器を特徴とする文化を「縄文文化」、その時代を「縄文時代」とし、土器の六期区分を用いてさらに縄文時代を分期して、縄文時代の変遷をたどるための基準としています。

市内において発見されている遺跡は八十か所あまりですが、その内の八割以上が縄文時代の遺跡であり、多数の集団が居住し、繁栄期を迎えたことを示しています。

牛石遺跡は、桂川と大幡川が合流する厚原地区の河岸段丘上にあります。昭和五十四～五十六年に、圃場整備事業に伴う発掘調査が実施され、縄文時代中期末の直径五十メートルにおよぶ大環状配石遺構が発見されました。この配石遺構は、同時期のものとしては国内最大規模のものであり、また、形も整っていることから全国的にも有名となりました。

この縄文時代中期末という時期は、気候が寒冷化し、また、富士山の火山活動も活発な時期で、遺跡数は減少するなど、生活が困難な時期であったと思われます。

牛石遺跡の大環状配石遺構は、このような時代のなかで、市域に生活した縄文人たちが作り出した巨大な祭りの場であったことが明らかになりました。

詳細については、資料編「地史・考古」、「通史編」をご覧ください。

社会教育課　文化振興係

都留市史「通史編」刊行

昭和五十五年度より取り組んできました市史編纂事業は、資料編六巻に続きまして、最後の巻となりました通史編をこのたび刊行し、完了いたしました。

「通史編」は、市域の先史時代から昭和二十九年の市制施行までの歴史をコンパクトに取りまとめたもので、本市の歴史を学ぶためには最適のものです。

既刊の資料編と併せてご利用ください。

【資料編】

「地史・考古」　B5判　3500円
地域の地質・地形、遺跡掲載。

「都留郡村絵図・村明細帳集」　A4判　6000円
近世郡内の村33か村の絵図をカラーで掲載

「民家・民俗」　B5判　5500円
市内の民家、民俗調査の集成

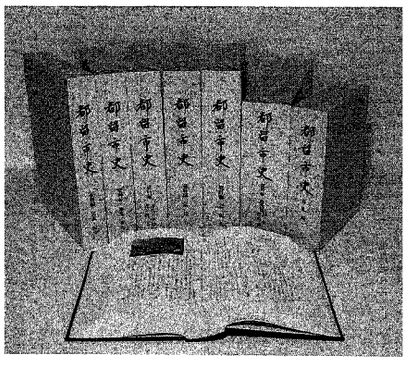
「古代・中世・近世(一)」B5判　5000円
古代～近世前半の文書史料掲載

「近世(二)」B5判　5000円
近世後半の文書史料掲載。

「近現代」　B5判　5000円
明治時代から市制施行までの文書史料を掲載。

【通史編】1073頁　A4判　5000円
先史時代から市制誕生までの市域の歩みをわかりやすく記述。

申込先　社会教育課文化振興係



都留自然教室

「四季の草花観察会」参加者募集

私たちのふるさとには、多くの美しい自然が残っています。その草花を観察し、自然のしくみを学びましょう。

一年の予定は次のようになっています。

第1回　5月11日　夏狩・宝鏡寺にヤマブキソウをみる。(午前9時30分宝鏡寺集合)

第2回　6月8日　市指定文化財・菅野のカツラの木をみる。ひょっとすると、珍しい寄生植物のヤマウツボが見られるかも知れません。

第3回　9月7日　三国峠にフジアザミをみる。

第4回　3月1日　芦川村にセツブンソウを見に行く。

問合先　社会教育課文化振興係